

せんだん



富山県立
砺波学園
砺波市福山1164

〈発行責任者〉
和田良美

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1250/toppage.htm>



2020年度カレンダー テーマ「むかしばなし」



主幹・指導課長 大野 芳江



令和で始まる今年度は、オリンピック開幕を待つわくわく感のなかで迎えるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、全てがあたりまえでないことに気づくことから始まりました。

砺波学園においても「ウイルスを持ち込まない、広げない」ため、行事の中止や活動の制限をお願いしていますが、保護者、学校、地域の皆様方にはご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

臨時休校、緊急事態宣言が出された時期は、職員は知恵を絞りこれまでとは違った工夫をもって子どもたちと向き合いました。子どもたちも戸惑いや不安をそれぞれの表現で訴え、ともに必死に前を向いて進んだ時間でした。そのなかで強く感じたことが2つあります。

一つは、どのグループも活動に散歩を取り入れていました。里山の緑の美しさ、眼下に広がる砺波平野、鎮守の森は、子どもたちの素直な心、明るさを引き出してくれました。自然のなかで心身を養うことの確かさと、砺波学園は草創期から長い間、園外歩行を指導の柱の一つとしていたことに思いを馳せました。もう一つは、報道される感染者数や首相の発言に注目している子どもがたくさんいたことです。生活に直結する情報や意思決定の仕組みを知りたいと思う、生活者としての主体性が育つていることに感動しました。

子どもは多くの人との関わりのおかげで学んでいくことを再認識したことは言うまでもありませんが、この自粛生活も節にして伸びていく子どもの力を思い、真に大切なものは何か問う日々です。

昨年度、国では「障害児入所施設の在り方に関する検討会」が行われ、子どもの最善の利益を尊重した個別支援を実施していく視点で、4つの機能（発達支援機能、自立支援機能、社会的養護機能、地域支援機能）強化の方向が示されました。

砺波学園でも児童のニーズは多様化していると実感します。一人ひとりが、のびのびとたくましく子ども時代を生き、自分を大切にできる人に成長してほしいと願い、努力してまいります。

ウイルス感染症対策



保健編

新型コロナウイルスに感染すると、無症状の人もいますが、強いだるさや風邪症状（発熱や咳、喉の痛みなど）がみられ、重症化すると肺炎を起こし、亡くなることもあります。飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）や接触（ウイルスをさわる）で感染します。症状がなくても閉鎖した空間で、近くで人と会話する等で感染を拡大させ、最近では空気中に漂う粒子（エアロゾル）によっても感染すると言われています。また、ウイルスはプラスチックの表面では最大72時間生きています。目に見えないので、どこについているかわかりませんが、残念ながら現在は治療法もありません。

感染予防のため、学園では、全職員がマスクを着用し、咳エチケットを徹底、こまめな手洗い・手指消毒に努めています。また、園内の定期的な換気と消毒を行い、さらに集団生活の中では「3密（密集、密接、密閉）」を回避する方法も日々模索しています。7月には職員の感染症予防研修会を実施し、感染症への理解を深めたところです。



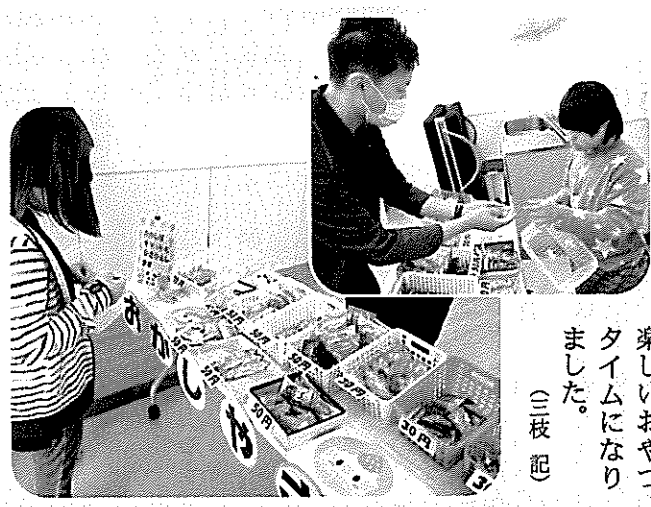
振り返ると、4月の県の緊急事態措置下では、面会制限（子どもたちや保護者の皆様のご協力にただ感謝するばかりです）でしたが、5月に解除することができ、6月からは学校が再開され、ようやく子どもたちの生活も軌道に乗りはじめました。現在、感染予防に配慮しつつ、日中一時・短期入所事業、余暇教室の講師やボランティアの方々の受け入れも少しずつ再開しています。

今後も、定期的に園内での取り組みを振り返りながら、感染症を「持ち込まない・持ち出さない・広げない」を念頭に、職員一丸となって、子どもたちのより安全・安心な生活や健康の保持増進、病気の予防に留意していきたいと考えています。今後も保護者の皆様や関係者の方々のご協力をよろしくお願いいたします。
（西野保健師 記）



外出控え 密集回避 密接回避 密閉回避 換気 咳エチケット 手洗い

行事編



毎年5月には近くのコンビニへ買い物に行っていました。今年には新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、学園内で買い物体験をしました。

学園のお店には子どもたちが好きなクッキー、チョコレート、せんべい等、約25種類のお菓子が並んでいました。子どもたちは手指の消毒、密にならないよう間隔をあけ並びました。買い物カゴ、チケットを持ってお買い物へ。たくさんのお菓子を前に皆の目はキラキラです。好きなお菓子を袋に詰め、楽しいおやつタイムになりました。

（三枝 記）





砺波学園の新型コロナ

日常生活編

砺波学園では、食事やスポーツ、行事など、育成班、療育班、男女問わず一緒に活動することが、普通でした。しかし、現在は昨今の新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、園内の感染防止の観点から、3つのグループ（育成班男子・育成班女子・療育班）に分かれ、それぞれのグループが交わらない形で、生活を送っています。

子ども達が何より残念がったのは、学校の休校でした。自主登校という形で登校することもありましたが、学園で過ごす時間が多くなりました。メリハリのある生活を維持するため、勉強時間やグループごとの全体活動（スポーツや散歩等）の時間を設定し、活動場所や時間などをわけあつて、各々のグループが重ならないようにして、活動しました。

食事も、時差をつけてグループが交代で食堂に入る形となりました。みんな顔を見ながらの楽しい食事も、現在は正面に向き合わない形で座席となり、以前とは打って変わった食事風景となりました。「新しい生活様式」の「食事の話は控えめに」「食事に集中」といったことに、子どもたちは戸惑いもありましたが、その意味を伝えることで、次第に慣れ、静かで落ち着いた食事風景となつていきました。

マスクの着用も、当初はマスクをすることが苦手だったり、きちんとマスクを着用できなかったりといった子もいましたが、



「継続は力なり」か、子ども達の意識も高まり、マスクがずれている子に、声を掛けて注意を促す子どもの姿も見られるようになりました。同様に、手洗い教室や、普段の手洗いの励みなどを通して、手洗いが嫌いだった子ども、少しずつ拒否感が薄れていたり、うがいをするようになった姿も見られるようになりました。

密を避けるソーシャルディスタンスの意識も、距離を視覚的、体感的に感じさせることで、人と距離を保つことや、「今（人が）たくさんいるから、もう少し待とうかな」と順番を待つ姿が見られたりしてきました。

寮内の換気や、清掃や除菌作業等も、朝の掃除時間に加えて、おやつ前の時間に児童・職員が、一緒に取り組む中で、習慣化していきました。

この新型コロナによる「砺波学園における「新しい生活様式」」を通して身に付けたことを、自分を守る習慣とし、今後の「Withコロナ」の社会の中で元気に社会参加していけるよう、今後も子どもたちと一緒に学んでいきたいと思えます。（干場 記）

児童の感想編

今回、園の感染予防対策について、子どもたちにインタビューし、その複雑な心の内を少し窺うことができました。



職員「コロナ禍で何が変わりましたか」

Sくん「一番困ったのは、帰省ができなかったこと。でも今は第二波が心配」

Iくん「窓を見て静かに食べる食事が嫌。前みたいにいろいろ話をしたい」

Mさん「男女別の活動が嫌。前のように早く一緒に活動ができれば」

職員「コロナ禍で新たに始めたことは」

Kくん「ミシンで自分とお父さんのマスクを作りました」

Iさん「私も可愛らしいマスクができて嬉しかったです」

Mくん「畑でパプリカを初めて作りました」

Mさん「枝豆を収穫して食べました。美味しかったです」

Iくん「野球が楽しくなりました」

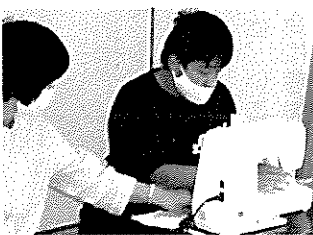
職員「今後の生活に期待することは」

Oくん「高校三年なのでみんなと楽しい思い出をたくさん作りたい。特に走ろう会は絶対にやりたい」

Yくん「いろいろな工作を作りたい」

Hさん「コロナが早く治る薬を作りたい」

（岩田 記）



中日ボランテイヤ賞

中日ボランテイヤ賞とは、北陸中日新聞、北陸中日新聞社会事業が富山、石川両県内で他の模範となるボランテイヤ活動を続けている個人やグループ、団体を顕彰しているものです。2019年度、砺波学園から「貝淵悦子さん」と「前田由美子さん」のお二人が選ばれ、表彰されました。

貝淵先生は2013年10月からボールペン習字を教えていただいています。退職後に時間ができ、ボランテイヤをしようかなと考えておられたところ、広報誌で砺波学園ボランテイヤ募集の記事を見つけられたそうです。

先生は「褒めてあげること」と「綺麗に書く」ポイントを伝えること「に気を付けながら教えて下さる一方で、子どもひとりひとりの個性も意識して接して下さっています。子どもたちも一対一の空間で、アドバイスも素直に聞きながら一生懸命書いています。

前田先生は保健師として砺波学園で働いておられたことがあり、当時の園長より「子どもたちに社会的なものと触れさせてあげたい」と依頼を受けたそうです。

先生は詩吟を通して昔の人が作った歌を知ってほしい、人間の奥深い感性の世界に触れてほしい思いとともに「子どもに」主体的に楽しんで欲しい」と考えておられます。また、子どもたちのやる気を引き出したり、自信をつけるため、6月は「菖蒲祭り」、10月は「杉の子祭」に発表することを目標に取り組んでおられます。子どもたちも声の出し方、姿勢などに気を付けながら吟じています。

(荒木 記)



前田由美子 先生 (詩吟)



貝淵悦子 先生 (ボールペン習字)

OB会に参加して

保護者会会長

野 呂 清 彦

令和2年2月に、いこいの村で行われたOB会に参加してきました。学園の先生方をはじめ、OB保護者、在園生の保護者10数名の参加があり、とても楽しい会になりました。

その中で、OB生の現在の様子「同級生の〇〇君と一緒に施設で仲良くやっている」「入所した施設から転園し、新しい施設で元気にしている」等の話をいただきました。また、「雪が降ると送迎が大変」「入所者の年齢層が高い」「障害者年金の申請が大変」等、実際に経験した方でないとは分からない情報がたくさんあり、とても有意義な時間となりました。進路相談や、施設のパンフレットでは分からない生の情報が聞ける機会は少ないので、とても貴重な体験だったと思います。次回OB会がありましたら、是非参加を検討してみてください。

学園での支援 紹介します！

わかば寮

『歯みがきカード』

1か所ずつ磨く場所を示しており、カウントしながら児童が磨けるように使用しています。



『入浴準備カード』

自分で用意ができるように使用しています。

つばと寮

掃除は手順書(写真入り)を利用し視覚的にわかりやすいよう支援しています。
【職員も確認するポイントが分かります】



【洗面所掃除の手順】



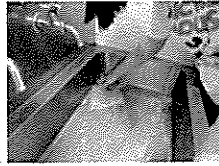
④あわをあらいながす
⑤スポンジをしぼる



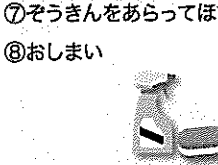
①せんざいをまく



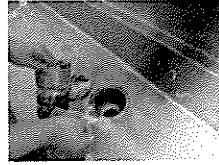
⑥洗面所のぞうきんで洗面所のまわりをふく



②洗面所のスポンジで横、すみもていねいに見がく



⑦ぞうきんをあらってほす
⑧おしまい



③はいすいごうの中のものもとりはずしてあらう

☆おわたたら『おわりました』とほうこくしましょう

学園の苦情解決及び

事故対応の状況について

学園では、三名の方に第三者委員を委嘱し、年一回懇談会を実施しています。令和二年二月に実施した懇談会では、苦情及び事故状況と対応・再発防止策について報告しました。委員からは、苦情に関する質問や、児童らの地域移行プロセス及び他機関との連携に関する質問がありました。また通院や服薬等の医療ニーズのある児童の支援方法について情報交換を行いました。
学園の正面玄関内と児童玄関前に苦情・要望を伺うための「ふれあいボックス(意見箱)」を設置しています。現在、児童らの目につきやすい場所にも意見箱を設置しようと検討中です。皆さまから寄せられた声について、学園として何ができるかを検討し、より良い学園になるよう努めてまいります。
(池田記)

	件数	事故状況
事故	育成班	1件 所在不明
	療育班	3件 器物破損
		2件 支援中の職員の怪我
		3件 怪我
		1件 児童間の他害
		1件 服薬漏れ
	職員	1件 アドレナリン誤射
計	12件	
苦情	2件	

(令和元年6月～令和2年5月末現在)

善意の窓

(敬称略)

◎寄贈

- ・砺波市更生保護女性会
- ・砺波市連合婦人会
- ・北陸コカ・コーラボトリング株式会社砺波工場
- ・貝淵悦子
- ・富山県善意銀行
- ・品川グループ
- ・梅檀山ヘルスボランティア
- ・カナカン株式会社
- ・県庁職員労働組合
- ・となみセントラルライオンズクラブ
- ・澤田グループ
- ・せんだん
- ・斎藤真知子
- ・前田由美子
- ・ふじや寝具店

◎ボランティア活動

- ・庄東地区民生委員・児童委員協議会(除草)
- ・せんだん(雑い物・除草)
- ・砺波市更生保護女性会(掃除活動)
- ・砺波市連合婦人会(掃除活動)
- ・となみセントラルライオンズクラブ
- ・(屋内ランチ・レクリエーション)
- ・富山県立砺波工業高校吹奏楽部
- ・(演奏・レクリエーション)
- ・梅檀山ヘルスボランティア
- ・(パネルシアター)
- ・N.T.T.ニュークリスタル(バンド演奏)
- ・(株)オフィスケイ
- ・(夕ラウジーズ観戦招待)
- ・中野周一(余暇支援)
- ・辻慎太郎(余暇支援)
- ・貝淵悦子(ボールペン習字)
- ・前田由美子(詩吟教室)
- ・笹島寿満代(お茶教室)
- ・齋藤真知子(お茶教室)

※令和元年度の杉の子祭は、台風の影響により規模を縮小して開催した為、ボランティアの受け入れはありませんでした。



DVDレンタル



セルフ食事



つばさ女子余暇



お楽しみ会(手づくりおやつ)



エアロビ

ほのぼの にこにこ 元気いっぱい みーつけた♪



園長座談会



子ども会
(花・生きものの係)



紙芝居(権利のはなし)



杉の子祭
(ゲームコーナー)

子ども会役員とスローガン



杉の子祭(カード作り)



七夕かざり



みんなで走ろう会



子ども会会長選挙投票



子ども会役員とスローガン



みんなで走ろう会(表彰式)

新型コロナウイルスの影響で生活スタイルが一変し、新しい生活様式でのスタートとなりました。制限がある中でも子どもたちは元気いっぱいです。変わりのない笑顔あふれる学園生活が送れるように、子どもたち協力の中、職員一丸となり努力していきたいと思っています。

(音藤 記)

編集後記

- 3月 3日 ひなまつり
- 2月 25日 2020ありがとうの会
- 12月 24日 年末お楽しみ会(クリスマス会)
- 12月 24日 となみ東支援学校学習発表会

《杉の子祭の開催について》
今年度の杉の子祭は、規模を縮小して児童及び職員、保護者の方のみで作品展示、工作、ゲームコーナーを行う予定です。

- 10月 10日 ミニ杉の子祭
- 7月 31日 夏のお楽しみ会
- 7月 7日 砺波工業高校吹奏楽部演奏会(行先や交通手段を子どもに
応じてグループ活動)

- 8月 3日 21日 夏季特別体験
- 7月 8日 七夕のつどい
- 5月 27日 子ども会役員選挙
- 4月 1日 新任式

年間行事予定